

言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
アジア研究・対アジア関係分科会（第25期・第4回）
議事要旨

日時：2022年10月1日（土）10:00～11:30

場所：オンライン（ZOOM会議形式）

出席者：川島真、栗田禎子、下田正弘、三重野文晴（書記）、宇山智彦、芳賀満、加藤隆宏、君島和彦、久保亨、黒木英充、國分典子、小嶋茂稔、坂井俊樹、斎藤明、高見澤磨、中野聡、水羽信男、三ツ井崇、村上衛、吉澤誠一郎

4. 議題

- （1）前回議事要旨の確認
- （2）9月18日シンポジウムについて
- （3）東洋学・アジア研究連絡協議会のシンポジウムの主催について
- （4）その他

資料

- ・ 第25期第3回アジア研究・対アジア関係分科会議事録
- ・ ウクライナシンポジウムアンケート結果
- ・ 東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム「東洋学・アジア研究の新潮流」

冒頭、川島委員長より、定足数に達していることが確認され、分科会の開催が告げられた。

1. 前回議事要旨の確認

前回開催された分科会の議事要旨案を確認し、了承した。

2. 9月18日シンポジウムについて

川島委員長より、2022年9月18日に実施されたウクライナ・シンポジウムについて報告された。登録者400名強、参加者300名程度と盛況となったこと、アンケートによるとSNS経由での発信によって研究者外への周知の効果が高いこと、参加者の満足度が高かったこと、などが確認された。

3. 東洋学・アジア研究連絡協議会のシンポジウムの後援について

齊藤委員より、2022年12月3日に予定される東洋学・アジア研究連絡協議会によるシンポジウム「東洋学・アジア研究の新潮流」が説明され、これまでに倣って、これを日本学術会議・本分科会の後援とすることについて承認された。それについて以下の方針をとることとした。

- ・ 本分科会による主催として日本学術会議の幹事会に手続きをとる。
- ・ 東洋学・アジア研究連絡協議会と本分科会の共催として広報する。

- ・ 本シンポジウムに栗田副委員長が報告者の1人として参加し、ウクライナ・シンポジウムをはじめとする今期の本分科会の報告をする。

4. その他

- ・ 川島委員長より、パンデミックと社会に関する連絡会議への参加を行っていることが報告された。
- ・ 提言・見解のとりまとめについて、第25期中にこれを発出するためには幹事会に対して11月に意思表示、1月に原案提示、3月に内容確定の動きとなることが確認された。本分科会としては、可能であれば25期中に発出することを念頭におきながら、分科会幹事によって骨子案をつくるとともに、提言・見解の内容及び今期に発出するか否かについて審議していくこととした。

以上